

University of Shizuoka Magazine

 静岡県立大学広報誌

No.135

2017.July

# はばたき

特集

活躍するクラブ特集

産学民官連携特集

食べて森を救う

「イズシカめんち」誕生

キャンパストピックス

静薬100周年

岩崎照吉氏のレリーフの除幕式

海外留学体験記

ロシアとフィリピンからの

留学生インタビュー





## CONTENTS

- p01 **草薙キャンパスへようこそ!**
- P03 **活躍するクラブ特集**
- p05 **産学民官連携特集**  
**食べて森を救う「イズシカめんち」誕生**
- p07 **CAMPUS TOPICS**
  - ・平成29年度入学式
  - ・薬学100周年岩崎照吉氏のレリーフの除幕式
  - ・平成29年度開学記念行事
  - ・就職内定率発表
  - ・学長の男女共同参画講義／職員研修会
  - ・第31回剣祭、第21回橘花祭
  - ・草薙龍勢冊子贈呈
  - ・静岡県の産業・歴史・文化観光マップ完成
  - ・外国人観光専門家による講演
  - ・ジャーナリズム公開講座
  - ・高校生のためのリスク学入門
  - ・日韓ビジネスプレゼンテーションセミナー
  - ・県立大学×静岡新聞社「新聞ランチ」
  - ・HPS養成週末講座開講式
- p14 **「八雲手拭い」「妖怪手拭い」が完成**  
**活躍する卒業生**
  - ・看護学研究科
- p15 **海外留学体験記**
  - ・ロシア、フィリピンからの留学生インタビュー
- p16 **図書館だより**
  - ・小鹿・草薙図書館／私の一冊の本
- p17 **Information**
  - ・本庶理事長退任のお知らせ
  - ・受賞一覧
  - ・学習奨励金受け入れ
  - ・教員人事



表紙写真:緑あふれる草薙キャンパス

# 草薙キャン



生まれ変わったJR草薙駅  
南口の愛称は  
「県大・美術館口」

新看護学部棟や  
短期大学部のある  
小鹿キャンパス





# パスへようこそ!

静岡県立大学では、2017年4月1日から、「谷田キャンパス」の名称を「草薙キャンパス」に変更しました。同キャンパスの最寄駅であるJR草薙駅の駅舎が昨秋生まれ変わり、駅南口の愛称は「県大・美術館口」となりました。現在、草薙駅周辺では静岡市が駅前広場の整備を進め、地域住民の方々が公共空間などを利用した「にぎわい創出」を目指す、住民主導のまちづくりに取り組んでいます。

本学としても、文教のまち「草薙」のブランド化に貢献できるよう、今後も一層、地域を大切に、ともに歩んでまいります。

今号では、そんな「草薙キャンパス」から、学生たちのクラブ活動、地域産学連携の姿を特集として紹介します。





## 特集①

# 活躍するクラブ特集

## 学生団体NGOあおい

### <採択>

学生団体NGOあおいの「子どもの権利促進プロジェクト」は、公益信託 今井記念海外協力基金の2017年度助成事業として採択されました。同基金は、開発途上国における教育、医療等の振興及び災害等による被災者の救済のための活動を行う市民組織（NGO）に対し資金助成を行っており、学生団体NGOあおいのカンボジアでの活動が評価されました。

代表  
赤岡さん



### <活動紹介>

あおいでは、カンボジア王国コンポントム州において「子どもの権利促進プロジェクト」を現地NGOであるCCPCRという団体と提携して行っています。子どもの権利とは国連で定められている四つの権利で、生きる権利、育つ権利、参加する権利、守られる権利があります。子どもの権利やその他の知識を子どもやその親、さらに自治体に浸透させ、コミュニティ全体で問題を未然に防ぐ、あるいは自主的に問題を解決する能力を身につけることを目的としています。これによって子どもが人身売買や児童労働被害から守られ、健やかに成長することができると考えています。

さらに日本国内で国際協力に関わる若者を増やすための活動も行っています。先日、駿河総合高

校へお邪魔し、高校生たちに国際協力を身近に感じてもらうための授業を行いました。また、夏にはスタディツアーを開催しています。実際にカンボジアで国際協力に携わる日本人を訪れたり、私たちのプロジェクト対象地であるコンポントム州の村にホームステイしたりと、一般の観光ではなかなか体験できないようなツアーを組んでいます。他にも、より多くの人に児童買春の存在を知ってもらう事を目的とし、休日には街中で街頭募金や市内のイベントに参加しています。

このような国内外での活動を通して、私たちは日々カンボジアの子ども達が自ら幸せを実現できる様な環境づくりを目指しています。

## 環境サークルCO-CO

### <受賞>

環境サークルCO-COは、一般社団法人全国森林レクリエーション協会主催の「第29回森林レクリエーション地域美化活動コンクール」において、林野庁長官賞を受賞しました。同コンクールは、森林を利用したレクリエーション地域において積極的に美化活動を行っている団体を表彰するもので、林野庁長官賞は農林水産大臣賞に次ぐ名誉ある賞です。



### <活動紹介>

私たち、環境サークルCO-COは毎週土曜日に清水区にある大内という地域で、地域住民団体「竹林再生プロジェクト大内」の方々とともに竹林整備を行っています。また定期的な活動として、大学生を対象としたワークキャンプやデイキャンプ、大内の地元の子供達対象の、ほっこり里山チャレンジ隊、年回の植樹祭を行っています。その他

にも色々なイベント参加や企画を行っていますが、今回の受賞は、主に上記の活動が認められ、静岡県の代表として推薦していただき得られたものです。大内の皆さんが私たちを受け入れてくれているからこそこそただけの賞です。感謝の気持ちを忘れず、これからもより良いサークル活動を目指し頑張っていきたいです。

代表 村松さん





元NGO あおいメンバー  
山川侑哉さん



私にとって静岡学生NGOあおいは自分のやりたかったことに挑戦できた場であり、新たな挑戦してみたいことに出会えた場です。NGOあおいの活動のため三度にわたってカンボジアに渡航し、人身取引という問題やカンボジアという国についてもっと知りたいという想いが強くなっていきました。

大学3年の終了時に1年間休学しカンボジアに滞在することを決め、あおいのパートナー団体でもある人身取引問題に取り組むNGO“CCPCR”で広報スタッフとしてイン

ターンを行いました。職業訓練や啓発活動、被害者の送還といった現場に同行して写真を撮り記事を書いてホームページやSNSで発信する仕事です。その際に撮った一枚の写真が国連のフォトコンテストで受賞し、結果として多くの人に問題について知ってもらえたことはとても嬉しく思っています。

今の私にとって大切な出会いや経験をするきっかけとチャンスくれた静岡学生NGOあおいという団体に感謝したいです。

## バドミントン部

バドミントン部は、週4回の正規練習と各種大会の出場を主に活動の内容としています。長期休みには、さらなる技術向上のために強化合宿を行なっています。大会については、年に2回開催される大学対抗の静岡県内リーグをはじめとし、個人戦



の県内リーグや西日本の医療系学生が出場する西日本コメディカル学生バドミントン大会、東海医歯薬科学生バドミントン大会、齋藤聡会長杯争奪バドミントン選手権大会等への出場をしています。これらの大会において、団体戦個人戦共に毎年数々の優秀な成績を残しています。昨年度の大会の成績については、春の大学対抗の静岡県内リーグにおいて一部リーグ団体戦の男女がともに優勝、関西薬学生バドミントン大会において男子団体戦が12年連続優勝、男子個人戦においてもシングルス・ダブルス・新人戦の全ての種目において多数の入賞者が成績を残しています。さらに、本校体育館で行われた四薬バドミントン大会においては、個人戦の全ての種目において多数の入賞者が優秀な成績をおさめる結果となりました。今年度においても、昨年度と同様に各種大会に出場

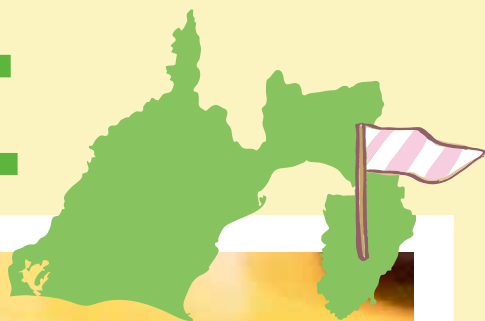
する予定です。春を迎えて新入部員も増え、より活気のある部活動ができております。今後のバドミントン部の活躍にご期待と応援の程、よろしくお願いします。



代表 大道さん



# 食べて森を救う 『イズシカめんち』 誕生



食品栄養科学部 市川陽子准教授のフードマネジメント研究室は、静岡市清水区由比町の飲食店「ごはん屋さくら」と、シカ肉を使用したメンチカツを共同で開発しました。(2017年2月1日より同店で「イズシカめんち定食」として提供されています。)

野生鳥獣による農林作物への食害は全国で問題になっており、静岡県でも平成16年に「特定鳥獣保護管理計画」(平成29年4月からは第2種特定鳥獣管理計画(ニホンジカ)(第4期))を策定し、シカの個体数の削減に向けた管理捕獲が進められています。中でも伊豆地域では目標生息頭数の6倍以上の

シカの生息が確認されており、被害は特産のワサビや椎茸にも及んでいます。管理捕獲したシカを廃棄せずに地域資源として活用することは、捕獲活動の継続化を図る上でも重要であることから、フードマネジメント研究室では、ニホンジカの肉を食資源として利活用するための食肉特性の解析、調理・加工法の集積、製品開発を進めてきました。

牛や豚に比べ脂肪分の少ないシカ肉は、それらと同じ方法で調理すると固くなってしまいます。そこで、玉ねぎを混ぜ込むことで、他の動物性油脂を一切使用せずにしっとりとした柔らかさを出すことに成功しました。加えて、食害か

ら守るべきワサビと椎茸を使用することで、商品に強いメッセージ性を持たせています。

市川准教授は、より多くの人にシカによる食害の現状を知ってほしいと考え、手軽に味わえるジビエ料理として、シカ肉のメンチカツを考案しました。



# 『大学は美味しい!!フェア』

に初出展

『大学は美味しい!!フェア』は、全国の大学が独自に開発した大学ブランド商品等の展示販売会で、本年度は5月18日(木)～5月23日(火)の6日間にわたり、新宿高島屋で開催されました。今回が初参加となった本学は、イズシカめんち定食をイートインスペースで提供したほか、めんち単品、おかずセットを物販スペースで販売しました。

会期中、鬼頭学長が会場でPRしてくださったほか、各校の教員による講演会が行われ、本学からは市川准教授が、シカの食資源化に関する研究を紹介しました。

また、テレビ、新聞等多くのメディアの取材があり、本学の取組が全国や首都圏のニュースで大きく取り上げられました。その効果もあり、連日多くのお客様が本学のイズシカめんちをお買い上げくださり、6日間で約2,500個を完売しました。お客様からは「まったくクセや臭みがなく美味しい」「特製ワサビソースがさっぱりとしていてめんちに合う」等、嬉しい感想をたくさんいただきました。

連日ブースで販売を行った4年生の稲垣桜子さんは「想像以上にジビエに



関心を持っているお客様が多く、関心のなかった方にも、私たちの活動に興味を持っていただけたことが嬉しかったです。」とフェアを振り返りました。

研究の契機となった、シカによる食害の現状を、関係者以外の多くの方に知っていただくことは、シカの個体数管理の取組を継続していくためにも重要です。今回のフェア参加を通して、そのメッセージを広く伝えることができたと考えています。



学生による接客



販売ブースにて鬼頭学長と



研究室の  
学生が考案した  
イズシカめんち  
キャラクター



## 平成29年度入学式



学長式辞

4月7日、静岡市駿河区のグランシップで、学部・大学院、短期大学の合同入学式を開催しました。学部生648人、大学院生111人、短期大学生142人、計901人が新たなスタートを切りました。

鬼頭宏学長は式辞で、今年本学が開学30周年を迎えたことから30年後の日本と世界に思いを馳せ、「30年先を憂っているわけにはいきません。皆さん自身がどうしたいのか、を考えてもらいたいです。将来はこうしようではないかと思い描き、それに向かって行動することが、困難を乗り越える最

善の方法です。皆さんには、入学を機に、ぜひ30年後の自分と、30年後の社会についてたくましく想像し、自分なりの目標を描いていただきたい」と激励しました。

国際関係学部の清水乙樹さんが新入生を代表し、「私は将来アフリカの最貧国といわれている国の一つであるブルキナファソという国で基礎教育を普及し、国の発展に貢献したいと考えています。今は国際関係についての知識も浅いですが、静岡県立大学で幅広い知識を身に付け、さまざまな経験をつみ、世界視野で行動できる人

間になりたいです。またグローバル化が進む現代において、海外に目を向けることはとても重要なことだと感じています。ここ静岡と海外の交流を促進し、静岡県の国際化をより活性化させ、海外に興味を持つ人を増やす手助けをしたいです」と、志高く決意を述べました。

入学式に続き、チアダンス部、アカペラサークル、ジャズダンス部のクラブ・サークル紹介が行われ、新入生にとって、先輩たちの生き生きとした姿に触れる機会となりました。



新入生代表の言葉を述べる清水乙樹さん

## 静岡女子薬学校創設者 岩崎照吉氏のレリーフの除幕式



完成したレリーフ

薬学部の前身である静岡女子薬学校（1916年開学）の創設者である岩崎照吉氏のレリーフが、このほど、草薙キャンパス薬学部棟の玄関に設置されました。

レリーフは静薬100周年記念行事の一環として設置されたもので、5月26日には、横倉輝男静薬学友会会長、創設者のご子孫である岩崎光成氏をお招きして、除幕式が執り行われました。

賀川義之薬学部長が「毎朝毎晩、学生、教職員が創設者のレリーフを見

ながら登下校することで、日々心を新たに勉学、研究に勤しむための支えになればと願っている」と式辞を述べた後、鬼頭宏学長が「女子の高等教育が一般的でなかった100年前に、薬学という専門の領域に進む女性を育てる場を誕生させ、全く新しい時代を切り開いた功績は大きい」と創設者をたたえました。

当日は多くの薬学部および大学院の教員、学生が参加し、次の100年に向けての決意を新たにしていました。



## 平成29年度開学記念行事について

今年で26回目となる開学記念行事を4月20日(木)に開催しました。運動会、USフォーラム、シンポジウム、懇親会の4部構成で、学生や教職員が交流を深めました。

### ～第1部～

第1部の「運動会」は、冒頭で鬼頭宏学長の挨拶と学生代表らの選手宣誓に始まり、天気にも恵まれグラウンドでの開催になりました。参加者は、赤、青、緑、黄色の4グループに分かれて、リレーや玉入れなど熱い戦いが繰り広げられました。今年も黄色チームが優勝しました。開学記念行事実行委員会委員長である眞鍋敬学生部長(薬学部教授)が講評を行い、閉幕となりました。



運動会



優勝は黄色チーム

### ～第2部～

第2部の「USフォーラム」は、草薙キャンパス看護学部棟13411講義室で開きました。平成28年度の学内研究に採択した全学部の研究成果(教員特別研究推進費等)と文部科学省・地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)の報告会として、口頭発表20件、ハイライト口頭発表9件が行われました。



USフォーラム発表

### ～第3部～

第3部は、第2部と同じ会場で、シンポジウム「大学でしかできないこと、大学ならできること」をテーマに、津富宏コーディネーター(学生部副部長、国際関係学部教授)の司会により、秋浜健人さん(薬学部)、内田佳治さん(看護学部)、菅野真伎さん(食品栄養科学部)からの意見発表や山川侑哉さん(国際関係学部)の受賞報告があり、鬼頭宏学長のコメントやフロアーからも発言があり、積極的な討論がなされました。



シンポジウム

### ～第4部～

第4部の「はばたきのつどい」は、学生ホールで、多くの教職員、学生の参加をいただき開催しました。おおとり会の長屋梅子会長から「静岡学生NGOあおい」に「おおとり会賞」、鬼頭宏学長から国際関係学部の山川侑哉さんに「はばたき賞」が授与されました。

また、第1部の運動会の表彰やチアリーダー(GOLD ROWDIES)、ジャズダンス部、山本夏夢さんの一輪車のアトラクションが披露され、大いに盛り上がりました。



おおとり会賞の表彰



学生によるパフォーマンス

なお、今年度の参加者は、次のとおりでした。ご協力ありがとうございました。

区分	参加者数(人)
第1部 運動会	169
第2部 USフォーラム	295
第3部 シンポジウム「大学でしかできないこと、大学ならできること」	85
第4部 はばたきのつどい	323
計	872

\*第4部の参加者数は、参加券の販売枚数等による。



## 就職内定率 好調98.4%を達成

平成29年3月卒業（修了）者の就職状況は、学部生の就職内定率は98.8%で、全国の平均（97.6%）や県内大学の平均（94.3%）を上回る結果となりました。

大学院修了者の就職内定率は、95.5%で、大学全体の就職内定率は98.4%でした。

●平成29年3月卒業者の就職状況（平成29年3月31日現在）

	薬学部	食品栄養科学部	国際関係学部	経営情報学部	看護学部	学部計	大学院	合計
就職内定率	98.7%	100%	98.1%	99.0%	100%	98.8%	95.5%	98.4%
(前年度)	100%	100%	97.7%	100%	100%	99.1%	97.7%	98.8%

統計：キャリア支援センター

## 学長が全学共通科目「男女共同参画社会とジェンダー」で講演

6月1日、全学共通科目「男女共同参画社会とジェンダー」の1コマとして、鬼頭宏学長が「結婚・家族とジェンダー～人口問題の視点から～」をテーマに学内で講演しました。専門の歴史人口学の立場から、日本だけでなく世界各国で起きている少子化の原因を、寿命の伸びや家族形態の違いなど4つ挙げ、出生率を上げるためにはジェンダー観の転換が必要と説明しました。

講演はしばしば学生への問いかけを交えて行われ、締めくくりには「これからの世の中をつくっていく皆さんの世代にとって仕事も子育てもしやすい社会になるよう、私の世代も今の社会に対してできることをやっていきます。どうか一緒によりよい社会を目指して、皆さんも前を向いて提案と行動をしていきましょう」と投げかけました。出席した学生や教職員にとって、普段の学長の顔とは異なる、歴史人口学者

としての学長から講義を受ける貴重な機会となりました。



## 学内事務職員研修

5月31日に、例年年度当初に開催している「学内事務職員研修」を開催しました。

この研修は、本学の事務職員を対象に、大学事務の基本を理解してもらうとともに、業務の的確な遂行のために必要なことについて、再認識することを目的に開催しています。

研修内容としては、鬼頭学長の講話の後、河野事務局長から「本学の掲げる理念と目標について」、佐藤総務部長からは「業務への取り組み方について」講演がありました。その後、小田原施設室長の案内で、模擬薬局、動物実験センター、防災センター等、普段あまり行く機会のない場所を視察しました。

今後も、いろいろな研修を通じて、大学事務に精通した職員を育成し、より良い大学づくりに努めていきます。

### イベントのお知らせ

#### 第31回 剣祭 10月28日(土)・29日(日)

##### ●草薙キャンパス

今年のテーマは「Story」。毎年恒例のお化け屋敷や各種ステージ企画のほか、クラブ・サークル等による模擬店、ライブ&イベントが行われます。また、本学の教育・研究を体験できる模擬授業や、ゼミ、研究室の一般開放も予定しています。

- TEL 054-264-5075 ●tsurugi@u-shizuoka-ken.ac.jp
- http://tsurugi31st.wixsite.com/honsai2017

#### 第21回 橘花祭 11月11日(土)・12日(日)

##### ●小鹿キャンパス

短期大学部の大学祭です。今年のテーマは「WORLD」。保育士・介護士・歯科衛生士を目指す学生による展示や模擬店、バンド演奏や橘花祭実行委員会主催のイベントを行います。またホームカミングデイや同窓会総会、小さなお子様と一緒に楽しめる親子向けイベントも併せて開催されます。

- TEL 054-202-2610 ●http://oshika.u-shizuoka-ken.ac.jp/



**草薙龍勢の魅力と草薙キャンパス周辺の歴史を紹介する冊子を作成、地元小中学校へ贈呈!**

小学生の頃から地元の伝統文化を学び参加することで郷土愛や誇りが生まれ、さらにはともに活動することで友情や絆が生まれます。それらは地元への愛着につながり、将来的な地元の活性化に寄与します。静岡市清水区の草薙神社では、江戸時代から伝わるとされる「龍勢花火」が、地域の保存会により製作、打ち上げられています。清水有度第一及び第二小学校の5年生は、毎年落下傘の製作と、木遣り道中、さらには打ち上げ前の呼び出しにも参加しています。

静岡県立大学では地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）地域貢献活動・研究の一環として、平成28年度、留学生を含めた本学学生が、龍勢を体感してその魅力を発見し、地域の小中学生をはじめ広く情報発信すべく活動を行いました。それらの成果をもとに、静岡市の助

成を受けて『龍勢の魅力』と題した小冊子を作成しました。5月18日には、龍勢の魅力さをさらに深く理解し広めてもらえるよう、作成者を代表し食品栄養科学部の丹羽康夫助教が、地元の清水有度第二小学校を訪れ、6年生へ冊子の贈呈を行いました。さらに、昨年実際に龍勢の落下傘作りや木遣り道中に参加し、それらの成果を学習発表会で披露した小学生には、今後より一層積極的に龍勢の魅力を伝



清水有度第二小学校での贈呈式

え、広める活動をしてもらえるよう、“龍勢ひろめ隊”の隊員として任命し隊員証の授与も併せて行いました。

冊子はその後、同校の5年生及び有度第一小学校の5、6年生に加えて、昨年度から呼び出しと場内放送を担当することになった静岡市立清水第七中学校へも贈呈されました。



小冊子「龍勢の魅力」

**静岡県の産業・歴史・文化を再発見!観光マップが完成!**

大学生の視点から県内の先端産業、文学・歴史、文化と自然を再発見するマップができました。文部科学省・地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の一環として行われたこのプロジェクトでは、国際関係学部の宮崎晋生講師を中心に、複数学部の教員と学生が各分野の専門性を生かした「学生による地域資源発掘ツアー」を実施し、その成果を3枚のマップにまとめました。

観光マップは草薙キャンパスのはばたき棟1階ロビーに設置のラックに配架しています。ご自由にお手にとってご覧ください。

**1 産業・イノベーションマップ:**

ものづくり県・静岡の知られざるスゴ技企業を紹介しています。大学のすぐ近くにあるスペシャリスト企業をまとめた清水区「灯台下暗し」工場マップ、県東部の航空宇宙関連企業をまとめた「空を牛耳る」県東部企業マップの2つ。

**2 文学・歴史マップ:**

「静岡オクスズ金銀ツアー」と題して、静岡茶、小説「銀の匙」で知られる作家・中勘助文学記念館、「黄金の湯」がある梅ヶ島温泉などをめぐります。



**3 富士宮ツーリストマップ(英語表記):**

JR富士宮駅から徒歩圏内にあるお店や見どころを英語で表記したマップです。外国からのお客様や在日外国人の皆さんが、気軽にのぞいて日本文化を体験できる場所を紹介しています。





## 外国人専門家から見た日本と静岡の観光

2月16日、韓国観光公社福岡支店長、林用黙（イム・ヨンムク）氏による講演「外国人専門家から見た日本と静岡の観光」が、観光教育課程専門委員会、現代韓国朝鮮研究センターの共催により行われました。

林氏は、韓国観光公社で一貫して日本から韓国へのインバウンド（外国人旅行者を自国へ誘致すること）に携わり、東京や大阪での勤務を経て、2016年から福岡支社長をされている観光の専門家です。

講演では、日韓の観光施策の推移、韓国で話題になった日本のプロモーションや、韓国で成功した小さな村や町に観光客を呼び込む取組など、豊富な知識と経験に基づいた様々なデータや事例を御紹介いただきました。

また、外国人専門家の目線から、静岡の人には見えていて外国人には見えてい



ないもの、逆に外国人には見えていて静岡の人には見えていないものを見つけることが必要であること、自治体が観光事業を成功させるためのキーパーソンの重要性などについて指摘していただきました。

現在、大学では、観光産業を支え、魅力ある地域づくりに貢献できる人材の養成を目的とした観光に関する教育課程（コースなど）の設置を検討しています。

教職員や県庁などからの関係者のほか、定期試験期間中にも関わらず多くの学生も集まりました。司会進行者（小針進・同センター長）からの「観光に興味のある人は？」との呼びかけには、多くの学生が手を挙げ、質疑応答も活発に行われるなど、関心の高さもうかがえ、有意義な講演会となりました。

## ますます充実! 5年目を迎えたジャーナリズム公開講座



グローバル地域センターでは、4月28日、B-nest（静岡市葵区御幸町）で、ジャーナリズム公開講座を開催しました。

この講座は、当センターの小川和久特任教授と西恭之特任助教の企画により、5年前からスタートしました。ジャーナリズムが機能しなければ民主主義は育たないとの認識のもと、第一線で活躍しているジャーナリストや編集者、弁護士などの方々を講師としてお招きし、新聞や週刊誌、テレビなどで私たちが目にして

いる報道から、現代のジャーナリズムが抱える問題を一般の参加者とともに考えようという趣旨で開催しているものです。

この日の講座では、ジャーナリストの常岡浩介氏による「シリア、ロシア情勢等の報道にみる日本のジャーナリズムのレベル」と題する講演が行われた後、放送批評懇談会理事の坂本衛氏が加わり、同氏のインタビューに答える形のトークがありました。最後に参加者から寄せられた質問や意見に対して常岡氏が丁寧に一つ一つ

答えて終了と、大変充実した2時間あまりの講座となりました。

参加者からは、内容の濃い講座だった、大変刺激的な話が聞けて有意義だったなどの声が寄せられました。

今年度のジャーナリズム公開講座は、13回の開催を予定しています。開催スケジュールや申込み方法は、グローバル地域センターのHPに掲載してありますのでご覧ください。皆さんの御参加をお待ちしています。



右から小川特任教授・常岡氏・坂本氏・西特任助教



## ■ 生活の中の安全を考えてみようー高校生のためのリスク学入門ー

3月5日、食品栄養学部と経営情報学部が合同セミナー「生活の中の安全を考えてみようー高校生のためのリスク学入門ー」を開催し、高校生28人が参加しました。このセミナーは、平成28年度地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)の地域志向研究の取り組みの一環として行われました。午前中は講義、午後は与えられた課題をロールプレイ形式で取り組みました。本セミナーに参加した高校生の中には、東は伊東市、西は浜松市と遠方からやってきた参加者も多くいました。参加した理由を聞いてみると、食品栄養学部、または、経営情報学部への進学を希望している生徒が多数を占めました。なかには、将来の目標として、管理栄養士を挙げた生徒もいました。

ロールプレイでは、普段の高校の授業と異なる形式のためか、最初は悪戦苦

闘していましたが、各グループに食品栄養学部と経営情報学部の学生たちがファシリテーターとして加わり、活発な議論を進めることができました。県東部の高校から参加した生徒は、「これまで学校で学んだ内容と違っておもしろい。微

生物の講義が興味深かった」と述べました。県西部の高校から参加した生徒は、「ロールプレイでいろいろな議論ができた。さまざまな視点の大切さが学べ、大学のイメージがつかめてきた」と話してくれました。



## ■ 日韓ビジネスプレゼンテーションセミナー

2月9日から10日にかけて、第6回の日韓ビジネスプレゼンテーションセミナーが釜山の東亜大学校にて行われ、経営情報学部・経営情報イノベーション研究科の上野雄史准教授のゼミ生(学部生6人と大学院生2人)が教員と一緒に参加しました。

第6回目となるセミナーでは、本学以外に日本からは名古屋大学、宇部高専、韓国からは東亜大学校、慶北大学校、釜慶大学校の皆さんが参加し、総勢で60人を超えました。

慣れない英語のプレゼンテーションに苦戦した学生たちでしたが、何とか無事やりを得ることができました。発表では、いま日本で問題になっている東芝の不適切(不正会計)会計の問題を取り上げ、なぜ問題となる会計処理が発生するのか、その対応方法は何か、ということに焦点を当て発表しました。英語の質疑に

タジタジになりましたが、気合で何とか乗り切った学生たちでした。韓国の学生たちは普段英語のプレゼンテーションの授業があるようで、流ちょうな英語でしゃべっていたのが印象的でした。

懇親会では、報告を終えた学生たち

は、和やかな雰囲気の中で、韓国料理に舌鼓を打っていました。セミナー・懇親会後は、それぞれのグループに分かれて、市内の観光に行き、次回の日韓の開催での再会を約束して会を終えました。





## ■ 県大図書館×静岡新聞社 新聞ランチを開催

平成29年度から、学生が新聞を読む機会を増やすきっかけにしたいという目的のもと、県大附属図書館にて、静岡新聞社との共催による「新聞ランチ」を始めました。5月から6月にかけて計4回にわたって開催し、毎回、静岡新聞社の若手記者を招き、マスコミ業界を志望した動機や、新聞社で働く中でのやりがいについて語っていただくコーナー設けています。その後、「1ページ目から全てを読む必要はなく、気になる

ページを開いて見出しに目を向けることから始めよう」とのアドバイスのもと、参加者各自で読書タイム。これまで「Uターン意向3割弱」や「無痛乳がん検診開発」など、学生ならではの気になる記事を取り上げて意見交換を行いました。参加者にとって、新聞記事の話題を通し、互いに異なる考え方に耳を傾け、視野を広げることができる有意義な時間となっています。後期は10月、11月に開催する予定です。



新聞ランチの様子

## ■ 文部科学省「情報ひろば」企画展示のお知らせとHPS養成週末講座開講式

### ①文部科学省「情報ひろば」企画展示 子どもと医療をつなぐためのツール開発「ホスピタル・プレイ」

ホスピタル・プレイスペシャリスト (HPS) は病児や障害児が医療プロセスにおいて感じる恐怖や不安などを“遊び”の力を用いて軽減する専門職です。本学では、全国で初となるHPS養成事業に着手し、遊びを使って病児を支援する教育・研究活動を行っております。

平成29年4月3日(月)～平成29年7月24日(月)(予定)の期間中、文部科学省「情報ひろば」企画展示室において、「子どもと医療をつなぐためのツール開発」をテーマに、医療を理解するためのツール、治療に参加するためのツールなど、遊びをベースにした病気や障

がいを持つ子どもの顔がみえる特色あるツールを紹介しています。機会がありましたら、ぜひご覧になってください。

### ②平成29年度 静岡県立大学短期大学部 ホスピタル・プレイスペシャリスト (HPS) 養成週末講座開講式

4月22日(土)、HPS養成週末講座第2クールを開講しました。HPS養成週末講座は、平成27年度にパイロット事業として実施しその結果を分析評価したところ、受講希望者のニーズと講座修了後の学習効果が見込まれたため、継続して開講することとなりました。今年度は、関東・関西を中心に、福井、宮崎県など11名の方が全国各地から受講されています。



文部科学省「情報ひろば」企画展示の様子



ホスピタル・プレイスペシャリスト(HPS)養成週末講座開講式の様子

## Pick Up ▶ 「学生ホール食堂の焼きたてパン」

草薙キャンパス学生ホール食堂では、毎週火曜日～金曜日に焼きたてパンを提供しています。(大学休業期間はお休み)10年以上前に食堂従業員の方のアイデアで始まったという焼きたてパンは、朝9時過ぎには食堂入口のテーブルに10種類

程度が並びます。一番人気は安くておいしいと評判のメロンパン、お昼前には全種類が完売する人気です。ほとんどの学生が購入してすぐに食べるとのこと、焼きたてパンは朝ごはんを食べずに登校した学生にとっての強い味方となっています。





# 「八雲手拭い」「妖怪手拭い」が完成

—国際関係学部 細川光洋ゼミ

国際関係学部・細川光洋教授のゼミの地域貢献推進プロジェクト「焼津&八雲YYプロジェクト」が静岡市・焼津市連携協議会の助成を受けて製作した、「八雲手拭い」「妖怪手拭い」が完成しました。「妖怪手拭い」は、小泉八雲の『妖魔詩話』に描かれた妖怪スケッチに、学生たちが焼津市で親しまれている「魚河岸マーク」をアレンジしてデザインし、静岡の伝統技術である浜松注染で夕陽の色に染め上げました。

3月21日には、静岡市産学交流センターで成果発表を行いました。3月29日には、焼津市長を表敬訪問し、手拭い一式を贈呈。あわせてプロジェクトの成果報告を行いました。

焼津市長への表敬訪問については、29日夕方の静岡朝日テレビ「とびっきり静岡」でも、「妖怪で町おこし」として紹介されました。



「手拭い」は商品化が決まり、今夏より、焼津小泉八雲記念館、焼津市観光協会で販売されます。

**お問い合わせ先：焼津市観光協会 054-626-6266**

## 活躍する卒業生

The graduate who plays an active part



お名前 石切山 千恵さん  
卒業学部 看護学部・看護学研究科  
(看護学部:平成20年3月卒業  
看護学研究科:平成28年3月修了)  
勤務先 静岡県立大学看護学部

### Q1. 現在のお仕事について教えてください。

私は今、静岡県立大学看護学部で成人看護学領域の助教をしています。講義や演習、医療施設での臨地実習を通して、学生が人を看護することを学ぶサポートをしています。助教になる前は、臨床で看護師として働いていたのですが、臨床での経験を生かすことができます。研究については、まだまだこれからといったところですが、少しでも研究者として成長できるように取り組んでいます。

### Q2. 大学生生活(ゼミやサークル)で印象に残っていること、今のお仕事に影響を与えたことは何かありますか？

大学生生活で印象に残っているのは、学部での臨地実習です。実習の中でさまざまな方と関わり、臨床での看護についてたくさん勉強させていただきました。特に3年後期は実習が多く大変でしたが、友人たちや先生方の助けを借りながら、実習を乗り切ることができました。実習での経験は自分がどのような看護をしたいのかを考えるきっかけとなり、それが臨床看護師だったときも、助教となった今でも自分のもとなっていると思います。

### Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか？

静岡県立大学は環境もよく、設備も整っていて、先生方も素敵な方がたくさんいらっしゃるのと、とても学びやすい大学だと思います。大学院に在籍していた時は、臨床で仕事しながら大学院に通ってました。学業と仕事を両立させることに最初は不安もありましたが、温かく時に厳しく熱心にご指導下さった先生方のおかげで無事修

了することができ、思い切って大学院に進学することを決めてよかったと思いました。

### Q4. 今後の目標について教えてください。

看護学部で看護師としての基礎を学び、看護学研究科で研究について学ぶことができましたが、まだまだ自分が勉強不足であることを日々痛感しています。教育、研究に携わる者として、これからも学ぶべきことがたくさんあるので、ひとつひとつ積み上げて、ステップアップしていきたいと思っています。

### Q5. 在学生にメッセージをお願いします。

大学生生活は楽しいことも大変なこともたくさんあると思いますが、それが後々の自分の糧になります。今は分からなくても、数年(もしかしたら数十年)経ってから、そのことに気づくこともあると思います。せっかくの学生生活なので、何事にも全力で取り組んで楽しんでください。そして、今後自分がどんな人生を歩んでいきたいのか、何を目指していくのかをしっかりと考えていって欲しいと思います。





本学が交換留学協定を結んでいるモスクワ国際関係大学 (MGIMO) とフィリピン大学から本学に来た3名の留学生にインタビューを行いました。



### モスクワ国際関係大学 (MGIMO)

左 ドミトリー・ベロフさん  
右 マリア・シピロワさん  
留学期間:2017年4月3日~6月30日



### フィリピン大学

マルガリタ・アギュラー・ラブラドールさん  
留学期間:2017年4月13日~8月7日

#### 日本に興味をもったきっかけは?

**マルガリタさん**：幼い頃から日本のアニメに親しんでいました。大学の専攻でアジア文学を選び学んでいるので、日本での留学を通して、文学についてより理解を深めたいと思っています。

**マリアさん**：中学3年生のとき、学校で日本の文化に触れる機会があり興味を持ちました。特に日本のアニメの音楽が好きで、インターネットを通して色々日本の音楽を聴くようになったのがきっかけです。

**ドミトリーさん**：高校2年生のときに高校卒業後の進路を考えた際、大学で国際関係を学ぼうと決めました。そこで、ヨーロッパの国々とは違う文化を持つ日本に興味を持つようになりました。

#### 日本に来てカルチャーショックを感じたことは?

**マリアさん**：あらゆるものがヨーロッパとは違うと感じますが、カルチャーショックというほどのことはありません。ロシアにいるときに大学の先生から日本について色々教えてもらっていたおかげだと思います。

**マルガリタさん**：日本ではいろいろなことがよく準備されていて計画的だなと感じますね。交通ルールも守られているし安全性の高い国だと実感しています。ただ、とても礼儀正しい一方で、相手との距離の取り方、振る舞い方がフィリピンと違い、最初は違和感を覚えました。例えばフィリピンではあいさつとしてよくハグをしますが、日本ではあまりしませんよね。今では、

ホストファミリーや県大生の友人にとっても親切に接してもらったなかで、日本とフィリピンとで接し方が少し違うだけと、理解できます。

#### 県大での授業はどうですか?

**マルガリタさん**：日本の文化に関する授業を多くとっています。日本語があまりできないので授業についていくのが大変ですが、先生方や県大生の友人がおしえてくれて、楽しく学んでいます。

**マリアさん**：私も日本語の授業についていくのは大変です。経済学や経営学の授業をとっていて、授業中にグループワークがあるおかげで県大生と仲良くなれました。

**ドミトリーさん**：そうそう、周りが助けてくれるので困ることはないですね。

#### 静岡で学ぶ魅力は何ですか?

**マリアさん**：先日、東京へ行きましたが、静岡と比べてある意味で外国人慣れしていると感じました。その点で静岡は人も街並みも、日本としてそのままというか、外国人に合わせるというよりも自然体で接してもらえる、日本をそのまま実感できる場所だと思います。

**ドミトリーさん**：市内には駿府城があったり、徳川家康の縁の地であったり、日本の歴史を感じることができるのも魅力のひとつですね。あと、ホストファミリーが連れて行ってくれた寸又峡や遠州森町が素晴らしいかったです。静岡は豊かな自然や歴史に触れる場に恵まれていると感じますね。

**マルガリタさん**：私も友人と静岡市内のカフェやカラオケに行ったりして、静岡でリラックスできる環境を楽しんでいます。

#### 将来の夢や目標は?

**マルガリタさん**：フィリピンで大学の教授になることを目標に、勉強を重ねて学士、修士、博士を取りたいと考えています。

**ドミトリーさん**：私は外交官になりたいと思っています。そのためには留学後も大学でもっと学ぶ必要があります。

**マリアさん**：私は貿易などを行っている会社に勤めたいと考えています。日本をはじめ、アジア諸国など様々な国と関わりを持つ仕事に携われたらと考えています。

#### 最後に、お世話になっているホストファミリーや県大生の友人へメッセージをお願いします。

**ドミトリーさん**：ホストファミリーから「おもてなし」の心をいつも有りがたく感じています。大学では県大生の友人にいろいろとおしえてもらっていて、とても心強く感じています。

**マリアさん**：ホストファミリーの皆さんのおかげで、日本食をごちそうになったり、日本語を教えていただいたり、留学生寮では経験できないようなことをたくさん経験させていただいて、とても感謝しています。

**マルガリタさん**：県大生の友人たちのおかげで大学生活を楽しく快適に過ごし、またホストファミリーのおかげで充実した毎日を送れています。皆さんには心から感謝しています。



# 図書館 だより

## 電子資料の収集と整備

### 【電子ジャーナル・データベース】

学術雑誌は元々紙媒体で発行されていましたが、インターネットの普及により、オンライン上で利用できる電子媒体での提供が年々増えています。附属図書館でも、平成15年度以降、21世紀COE補助金等の外部資金を活用し、電子ジャーナルとデータベースを積極的に収集してきました。

現在、本学では、学内LANのネットワー

クを通じて、学内全てどこからでもアクセスできる環境を整備しており、電子ジャーナルとデータベースは教員と学生の研究や教育に不可欠なものとなっております。

### 【電子ブック】

附属図書館では、平成28年1月から電子ブックの提供を始めました。英語多読用図書や、『できるWord 2013』『できるExcelデータベース：データ活用・業務効率化に役立つ本』『Excel関数を

極める勝ちワザ740』などの情報分野、国際交流分野を中心に、約800冊（同時アクセス1）を図書館ホームページから提供しております。

※電子ブックの内容や使い方については図書館ホームページをご覧ください。

ご不明な点がございましたら、附属図書館（054-264-5801）までお問い合わせください。図書館との出会いから、あなたの物語が始まります。



## 私の一冊の本



著者：井上 靖

出版社：新潮社

発行：1965年6月（1959年発表）

請求記号：（「井上靖小説全集15巻」）

918.68//I57//15

ISBN：978-4-10-106304-1

古い時代の物語や日本語に関心を持っているためでしょう、国の内外を問わず、文字の記された土器が発見されたとか、古い時代の文献が見つかったとか、そういった話題に私は強い関心を抱きます。だからでしょうか、いわゆる敦煌文書のことが描かれる『敦煌』には、井上靖の西域物のなかでも私は殊に惹かれます。

莫高窟の第17窟に封じられていた無数の経典類—敦煌文書は、1900年に王圓籙に

紹介者 国際関係学部 講師 竹部 歩美

紹介図書 「敦煌」

よって発見され、イギリスのスタン、フランスのペリオらによって国外に持ち出されて世界中に知られることとなったものです。敦煌文書が誰の手によって何故この場所に運び込まれたのか、史実は定かではないとされていて、西夏の敦煌侵攻に際して焚書を恐れた敦煌が意図的にこの場所に秘匿したのだとする説や、西夏が他国の侵攻から経典類を守るべくここに密蔵したのだとする説、あるいは、第17窟は不要な文書類の仮の保管場所だったのであって貴重文献の保管が目的ではなかったとする説などがあると言われていま

す。小説『敦煌』では、敦煌文書は主人公・趙行徳らの手によって莫高窟に秘匿された—進士の試験に失敗した行徳は、街で肉塊として売られていた女から西夏文字の記された布を渡される。行徳はそれを読解すべく西夏に向かう。そのため、西夏の敦煌侵攻にも居合わせることとなる。行徳は敦煌が持つ大

量の経典が戦火で灰燼に帰することを惜しみ、戦乱に乗じて敦煌の太守曹氏の宝物を得ようとする尉遲光に便乗して莫高窟の小穴に経典類を塗り込めることに成功する。—と描かれています。

平安時代の物語の写本を読解する作業を私は行っていますが、その日々の作業は、当然ながら、調査対象となる文献資料があつてはじめて成り立つものです。ですから、何時か誰かが様々な目的を持って書写し大切にしていたであろう冊子や卷子が、『敦煌』の経典類のような激動の史的背景を持つものではないとしても、また仮にそれが当時は紙屑であったとしても、現在私たちの元にあることを、ありがたく思わないではられません。『敦煌』を読むたびに、こうした思いはなお一層強くさせられます。同時に、『敦煌』は、私の目の前にある写本に記されている一言一句たりともないがしろにしてはならないという気持ちをも強くさせてくれるのです。





# 本庶佑理事長の退任のお知らせ

静岡県公立大学法人 本庶佑理事長が平成29年4月30日をもって理事長職を退任しました。平成29年5月1日から次期理事長が就任するまでの間、鬼頭宏副理事長が理事長の職務を行います。

## ■本庶佑前理事長からの挨拶

静岡に参りまして、5年1ヶ月、大変楽しく務めさせていただきました。

この間、第2期中期計画の策定や県立大学の改革のために取り組んで

参りましたが、これからも本学の発展に向けて、改革を進めていただきたいと思います。

また、これからの世界は、従来の経験だけでは分からない、非常に新しい局面を迎えるため、従来の考え方で、やっていけるような社会ではなくなると思っています。このため、若い人には是非チャレンジして、新しい世界を自分で創るという気持ちで進んで

いただきしたいと思います。

迎えた伝統ある本学が更に一段の飛躍をしていくことを期待しております。



最終日に本学正門前で花束を受け取る本庶佑前理事長

## 教員・学生の受賞

各受賞の詳細については本学公式サイト<sup>※</sup>の受賞一覧ページからご覧いただけます。

	氏名	所属	賞(章)名
教員	鈴木 隆 教授	薬学部	平成29年度日本薬学会 学術貢献賞
	小西 英之 講師	薬学部	平成29年度日本薬学会 奨励賞
	谷 晃 教授	食品栄養科学部	日本農業気象学会 学術賞
	青木 和恵 教授	看護学部	瑞宝単光章
	合田 敏尚 教授	食品栄養科学部	日本栄養・食糧学会 学会賞
	徳村 雅弘 助教	食品栄養科学部	廃棄物資源循環学会 平成29年度春の研究発表会 優秀ポスター賞
	恒松 雄太 講師	薬学部	がん予防学術大会2017 最優秀発表賞
学生	田中 遼太・増田 康晃	経営情報学部	平成28年度中小企業懸賞論文 本賞
	村上 千恵・田森 涼太 鈴木 麻裕・杉山 裕音	経営情報学部	SOHOしずおか ビジネスプランコンテスト ヤングビジネス賞
	小泉 蓮・常磐 有可 白崎 愛	経営情報学部	SOHOしずおか ビジネスプランコンテスト ヤングシーズ賞
	清水 聡史	薬食生命科学総合学府	量子ビームサイエンスフェスタ 学生奨励賞
	アリフ マウラナ・大石 真生	経営情報イノベーション研究科	情報処理学会 第79回全国大会 学生奨励賞
	鈴木 寛貴・松本 亘平	薬食生命科学総合学府	日本薬剤学会第32年会 最優秀発表者賞
	吉原 尚輝	薬学部	
	成田 雄大・兼子 裕規 関 秀太・松尾 聖羅	薬食生命科学総合学府	日本薬剤学会永井財団大学院学生スカラシップ
	後 英理・渡邊 龍矢	薬学部	永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞
	成田 雄大	薬食生命科学総合学府	SNPEE 2017 最優秀発表者賞
	瀬尾 真紀子	食品栄養科学部	日本環境化学会 第26回環境化学討論会 優秀発表賞
	増田 美里	食品栄養科学部	日本環境化学会 第26回環境化学討論会 優秀発表賞
	古川 美乃里	食品栄養科学部	日本環境化学会 第26回環境化学討論会 RSC (Royal Society of Chemistry) 賞

※H29年3月から6月末までに本学の公式ホームページに掲載依頼のあった受賞を掲載しています。 ※学生の所属は受賞当時のものです。

## 成績優秀者(学部2年次)へ学習奨励金

平成28年度末の時点での学部2年生の成績優秀者(全学部から計51名)に、賞状と学習奨励金(図書カード)が、4月の学部ガイダンス時に授与されました。

この学習奨励金は、静岡県立大学販売協力会(売店)からの奨学金と、はばたき寄金からの奨学支援金を原資としています。



(株)静岡県立大学販売協力会の市川由治代表取締役から奨学金を受け取る鬼頭宏学長(2月2日)

## 教員人事

### ◆採用

平成29年4月1日付

佐藤 道大	薬学部薬学科	助教
志津 恰太	薬学部薬学科	助教
宮崎 雄輔	薬学部薬学科	助教
山口 桃生	薬学部薬学科	助教
田中 瑞己	食品栄養科学部食品生命科学科	助教
橋 詰 力	食品栄養科学部栄養生命科学科	助教
徳村 雅弘	食品栄養科学部環境生命科学科	助教
島村 裕子	食品栄養科学部食品生命科学科	助教
上原 克仁	経営情報学部経営情報学科	講師
玉利 祐樹	経営情報学部経営情報学科	講師
操 華子	看護学部看護学科	教授
石川 紀子	看護学部看護学科	准教授
藤田 景子	看護学部看護学科	准教授
村方 多鶴子	看護学部看護学科	准教授
遠藤 りら	看護学部看護学科	助教
豊岡 利正	薬学部	特任教授
平山 裕一郎	薬学部薬学科	特任助教
柘谷 貴洋	薬学部薬学科	特任助教
西野 勝明	経営情報学部	特任教授
天野 剛至	言語コミュニケーション研究センター	特任講師
後藤 隆昭	言語コミュニケーション研究センター	特任講師

平成29年5月1日付

吉村 文彦	薬学部薬学科	准教授
-------	--------	-----

平成29年7月1日付

小牧 裕佳子	食品栄養科学部環境生命科学科	助教
王 育	食品栄養科学部環境生命科学科	特任助教

### ●教員昇任

平成29年4月1日付

轟木 堅一郎	薬学部薬学科	教授
フィリップ ホーク	薬学部薬学科	准教授
小西 英之	薬学部薬科学科	講師
世戸 孝樹	薬学部薬学科	講師
辻 大樹	薬学部薬学科	講師
雨谷 敬史	食品栄養科学部環境生命科学科	教授
牧野 正和	食品栄養科学部環境生命科学科	教授
森山 優	国際関係学部国際関係学科	教授
奈倉 京子	国際関係学部国際言語文化学科	准教授
上野 雄史	経営情報学部経営情報学科	准教授
大久保 誠也	経営情報学部経営情報学科	講師
田中 範佳	看護学部看護学科	教授
鈴木 和香子	看護学部看護学科	講師

平成29年7月1日付

恒松 雄太	薬学部薬学科	講師
-------	--------	----

### ◆退職

#### ●専任教員

平成29年3月31日付

梅原 薫	薬学部薬学科	准教授
関 俊哲	薬学部薬学科	講師
円谷 由子	食品栄養科学部栄養生命科学科	講師
佐久間 理英	食品栄養科学部栄養生命科学科	助教
保田 倫子	食品栄養科学部環境生命科学科	助教
藤巻 光浩	国際関係学部国際言語文化学科	准教授
比留間 洋一	大学院国際関係学研究科比較文化専攻	助教
浦野 充洋	経営情報学部経営情報学科	助教
山崎 真理子	経営情報学部経営情報学科	講師
野村 千文	看護学部看護学科	准教授
河内 俊二	看護学部看護学科	講師
谷口 通英	看護学部看護学科	准教授
佐藤 唯	看護学部看護学科	助教

#### ●定年退職

平成29年3月31日付

西野 勝明	経営情報学部(経営情報学科) 兼務 経営情報イノベーション研究科	教授
嵯峨 隆	国際関係学部(国際言語文化学科) 兼務 国際関係学研究科	教授
豊岡 利正	薬学部(薬学科) 兼務 薬学研究院	教授
桑原 厚和	食品栄養科学部(環境生命科学科) 兼務 食品栄養環境科学研究院	教授

#### ●特任教員

平成29年3月31日付

立田 洋司	国際関係学部国際言語文化学科	特任教授
徳村 雅弘	食品栄養科学部環境生命科学科	特任助教
大熊 富季子	言語コミュニケーション研究センター	特任講師
福田 純也	言語コミュニケーション研究センター	特任助教
岩崎 祐子	「ふじのくに」みらい共育センター	特任助教
中嶋 圓	地域・産学連携推進室	特任准教授 兼 事務局教育研究推進部 地域・産学連携推進室長

### はばたき読者アンケートのお礼

はばたき読者アンケートにご協力いただきありがとうございました。  
いただいたご意見・ご感想をもとに、より充実した広報誌を目指していきます。

## はばたき

135号 2017年7月15日発行  
発行元/静岡県立大学広報委員会

- 静岡県立大学広報企画室
- 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田5-2
- TEL/054-264-5130 ■FAX/054-264-5099
- E-mail/koho@u-shizuoka-ken.ac.jp
- URL http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/

### ご意見・情報をお寄せください。

記事に関するご意見・ご感想、今後取り上げてほしいテーマなど、ご要望をお待ちしています。また、本学の学生、教職員の教育・研究活動のほか、ご卒業生などに関連する情報もお寄せください。今後の企画の参考にさせていただきます。

●次号136号は2018年2月発行の予定です。



# 卒業式袴の専門店

静岡の貸衣裳の老舗  
**京都むらまつ**

## 静岡県立大学

をご卒業予定  
の皆様



学校内（草薙キャンパス）で、展示予約会を行ないます！

### check 1 「式当日、便利」

着付・ヘア・写真会場：学校内  
衣裳返却・着替え：学校内  
送迎有り：学校⇄グランシップ  
※送迎バスは学校が手配して下さいます。

### check 3 「その他」

- お店では随時予約できます。
- 短大生は当社ホームページをご覧下さい。
- グランシップでも展示会を行ないます（11、1月）。  
※詳しくは、当社ホームページをご覧ください。  
「大人気レトロモダン、正統派、高品質～リーズナブル、品数に自信があります！」

### check 2 「県大内で予約できる」

**学校内（草薙校舎）展示予約会**  
場所：上食堂1階ラウンジ  
時間：11時～17時※16時半最終入場  
日にち：2017年  
●10月16日（月）17日（火）  
●11月9日（木）10日（金）  
※日にちの変更がある場合は売店前に提示致します。カタログは9月末、売店に設置予定です。

**京都むらまつ** 店舗情報  
場所：静岡市葵区馬場町25-2  
（静岡浅間通り商店街）  
電話：0120-144081（フリーダイヤル）  
054-252-5293（代表）  
営業：10時～17時  
（水曜定休、お盆・正月休み有）



<http://www.kyoto-muramatsu.jp>

HP検索 京都むらまつ

# 「はばたき」読者限定! 県大生応援キャンペーン!!

〈お申込時にこの冊子をご持参下さい〉

9月末までにご入校の方に  
**TDLパスポートが  
ペアでもらえる!**

※普通自動車で入校の方が対象です  
※限定解除の方は対象外とさせていただきます



古庄は  
特典がいっぱい

優先予約で短期取得可

再検定料一切不要

技能オーバー無制限保証

夜間料金無料

免許は取ったけどしばらく  
乗ってないから運転が不安で…

**卒業生特典  
ペーパードライバー講習  
1時間無料**

※普通車のみ：2・3・8月を除く

お申込みはフリーダイヤル **0120-155-168** | 携帯からでもOK ※チラシを見たとお伝えください。

**公認 古庄自動車学校**

〒420-0812 静岡県静岡市葵区古庄3丁目11番15号  
TEL.054-261-1551  
FAX.054-264-0940  
<http://www.flushyou.co.jp>  
main@flushyou.co.jp

